

6月はロータリー親睦活動月間です

RI 第2820地区

水海道ロータリークラブ



2024-25年度 ステファニー A. アーチック RI会長

例会予定 6月11日 2024-25 年度事業実績報告
6月18日 会長・幹事 一年間を振り返って

VOL.62 No. 28 (通算No. 2753)

2025年6月4日(水) 例会プログラム

点 鐘

君が代・ロータリーソング

ビジター紹介

出席報告

SAA報告

諸報告

幹事報告

会長挨拶

2024-25年度 各委員会事業実績報告



写真提供者:石塚利明会員

2024-2025年度 会長 五木田裕一

幹事 大澤 清

創立 1963年9月25日

《例会場・例会日》

〒303-0034 茨城県常総市水海道天満町4684
常総市生涯学習センター2F 研修室

毎週 水曜日 12:30~13:30 ☎0297-22-1111

《事務所》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町3386
釜久ビル3階

TEL 0297-30-0875 Fax 0297-30-0876

Email mitsu-rc@lapis.plala.or.jp

URL <http://www.mitsukaido~rc.jp/>

6月はロータリー親睦活動月間です

例会報告 VOL.62 No.27 (No.2752) 5月28日(水) 晴れ (司会 中山英俊委員長)

本例会での主な事項

◎会長あいさつ

◎地区研修・協議会報告

セミナー参加 委員会委員長

ビジター

2025-26年度 ロータリー財団 補助金担当委員長 菊池泰正様 (土浦ロータリークラブ)

地区補助金担当委員長 椿 眞里様(北茨城ロータリークラブ)

幹事報告 五木田裕一会長

週報 なし

例会変更 なし

2024-25 年度事業実績報告締切が5月30日となっております。ご提出よろしくお願ひします。

立替をお持ちの方は精算をお願ひします。

会長挨拶 五木田裕一会長



皆様こんにちは。5月第3回例会のご挨拶を申し上げます。

本日は次年度地区財団委員のご担当でいらっしゃる土浦 RC より菊池様、北茨城 RC より椿様がお越しです。会員一同、歓迎申し上げます。

5月も終わりに近づき、そろそろ梅雨の便りが聞こえるようになってきました。九州南部ではすでに梅雨入りし、関東でも例年6月上旬に梅雨入りします。そうすると、一気に湿度が上昇し、蒸し暑い日が続くことになります。クラブでは5月より、ドレスコードがクールビズになり、ノーネクタイで差し支えないとしております。蒸し暑くなると同時に、冷房も強くなります。どうぞ体温調節をしやすい服装で、例会にお出でくださいますようお願い申し上げます。

さて6月になりますと、衣替えです。私も冬用のスーツから夏用のスーツへと交替させます。服を入れ替えながら、よくまあ服があるな、と思う次第です。反面、着ないままシーズンを過ごし、箆笥の肥やしになる服が出てきます。

さて問題は、これらをどうやって整理するかです。随分前から「断捨離」という言葉がはやっており、書店では一つのコーナーが設けられるほどです。モノがない時代から見ますと非常に贅沢な話ですが、今は如何に整理しコンパクトにするか、ということが多くのように思います。処分の線引きの目安ですが、よく2年を一区切りとするケースを目にします。確かに2年連続して着ないし使わないのなら、捨ててもまず支障はないでしょう。

どちらかといいますと、私自身、何でも取っておきたい性分なのですが、現実には不可能です。そんな事をすれば、たちまちゴミ屋敷になってしまいます。ところが不思議なもので、あれほど捨てられずこだわっていたモノについて、ある時ふと「今なら捨てられる」と思う時が来ます。恐らく気持ちの整理がついたのでしょう。

私も人生の折り返し地点をとくに過ぎております。これから先、すべてのモノや関係性を保持したまま先へ進むことは不可能です。今後、縁がある「何か」に関わって行くために、今ある「何か」を捨てなければなりません。この判断は、時として勇気がいる辛い決断になるでしょう。しかし出番が終わった役者は、舞台袖に引き上げるのが世の常です。

まもなく2024-2025年度も終わります。来月は各委員長様から1年間の総括を頂きたいと思ひます。是非

6月はロータリー親睦活動月間です

とも1年間を振り返って頂き、お役目を次の方に託して頂ければ幸いです。
本日もよろしくお願い申し上げます。

地区研修・協議会報告

職業奉仕委員会 松崎隆詞次年度委員長



ロータリーの基本理念

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある

第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること

第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること

第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること

第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

「職業奉仕」という概念

「ロータリーの目的」は、ロータリーの存在目的とロータリアンの責務について記した哲学的な声明です。

職業奉仕は、「目的」の第2項を土台としており、この項で、ロータリアンは次のことを奨励し、育むことが求められています。

- 職業上の高い倫理基準
- 役立つ仕事はすべて価値あるものという認識
- 社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1 真実かどうか
- 2 みんなに公平か
- 3 好意と友情を深めるか
- 4 みんなのためになるかどうか



1932年、シカゴ・ロータリー・クラブ会員で、1954-55年度に国際ロータリー会長を務めたハーバート・J・テイラーにより発案されました。倒産寸前の会社を建て直す役目を担ったテイラーは、仕事における全側面において従うべき倫理的指針として「四つのテスト」を創り、このシンプルな哲学のおかげで、この会社は倒産を免れました。その後、1934年に国際ロータリーで採用されて以来、「四つのテスト」はロータリアンが倫理的行動を測る上での重要な物差しとして用いられてきました。このテストは、多くの言語に翻訳され、世界中でロータリアンにより奨励されています。

職業奉仕の歴史

「職業奉仕とは何でしょうか、結論から述べると、職業生活を営んでいく上で、自らの事業に関連する関係者(顧客・従業員・取引業者)を対象にして行う全ての活動を総称して、職業奉仕と呼んでいます。

従って職業奉仕の活動の場は、自らの職場だということになりますし、奉仕活動の主人公は、事業主であるあなた自身だということになります。そして職業奉仕を実践した成果は、これらの関係者全員に及びます。

この考え方を提唱したのは、アーサー・フレデリック・シェルドンであり、それを具体的に表すモットーとして作られたフレーズが、「He profits most who serves best 最も多く奉仕する者、最も多く報いられる」です。

なお、このモットーは、元来、1902年に創立された、シェルドン・スクールのために作られたモットーであり、「The Golden Rule 黄金律 Do unto others as you would have them do unto you 貴方が他人からしてもらいたいことを、先に他人にしてあげなさい」を経営学に基づく奉仕理念に基づいて分かり易く言い直した文章だと説明しています。」

以上 田中毅「シェルドンの奉仕理念」

2008年9月国際協議会
「ロータリーにおける職業奉仕の重要性について」講演 渡辺好政理事

「ロータリーの樹・2008」→ 2013年9月規定審議会で採択

「1905年、ポール・ハリスら4名によって創始された最初のロータリークラブは、その歴史が示すように、初めに、親睦、助け合いから始まりました。すなわち、ロータリーの樹に水と栄養を送る「根」は「クラブ奉仕」であります。ロータリークラブ会員は、クラブという学校で相手のことに思いを馳せ、相手を助けるという「奉仕の理想」を学び、その真意が『共存共栄』であることがわかります。

『クラブ会員』は、ロータリーの目的を基本として、Hテラーによって実証され、ロータリアンの行動規範である「四つのテスト」による奉仕活動の実践を体得することによって、『ロータリアン』に進化してまいります。

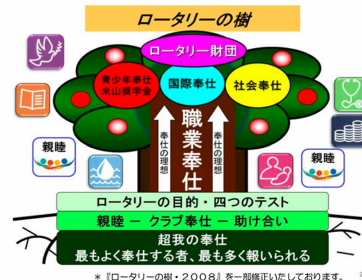
ロータリークラブ会員からロータリアンに進化してゆく過程の基盤には、Aシェルドンの『超我の奉仕』『最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる』が存在いたします。私たちは、この2つのモットーを一枚のコインの表・裏と考えながら、日常の奉仕活動に進進しております。ロータリーは「理念の高唱」に終わるのではなく「行動の哲学」なのであります。」

職業奉仕はロータリーの核心であり、世界中の地域社会で奉仕を行う土台となるものです。

高い倫理基準の実践を通じて高潔性を推進することは、ロータリアンとして不可欠の要素です。その中で生まれたのが、「四つのテスト」と「ロータリアンの行動規範」の2つであり、職場や生活のあらゆる場面で倫理的行動を実践するための指針となっています。

ロータリアンの行動規範

- 1 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
- 2 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
- 3 自分の職業スキルを生かして、若い人々を導き、特別なニーズを抱える人びとの生活の質を高める。
- 4 ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。



職業奉仕は倫理規範！

職業奉仕とは、ロータリアンにとっての倫理規範である。

ロータリアンの活動(職業)に常に意識するべき、指針であり、それに従った行動をすることが大切。

社会のリーダーとして様々な場面で活躍しよう！

各クラブ内で、職業奉仕について語り合いましょよう！

6月はロータリー親睦活動月間です

米山記念奨学会 青島弘典次年度委員長

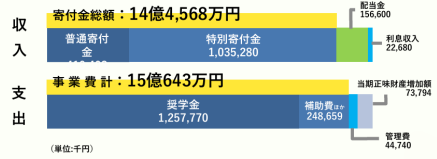


米山記念奨学事業の概要

- 日本のロータリー独自の事業 (RIが定める多地区合同活動の手續を完了)
- 日本で学ぶ外国人留学生を支援 (公益財団法人を設立し運営)
- 財源は全て皆様からのご寄付で成り立っています。
- 世話クラブ・カウンセラー制度で交流を重視 “人を育てる事業”

ご寄付は奨学事業に 全体支出の **97%** が事業費

2023-24年度は高額寄付もあり、前年度から2,300万円増



寄付金の種類

米山奨学会への寄付は寄付金控除の対象です

5,000円

普通寄付金

- 財団法人設立時の約束
- 奨学会の安定財源
- クラブで決定した金額×会員数
- 前期(7月) 後期(1月)

20,000円以上

特別寄付金

- 個人・法人・クラブからの任意寄付
- いくらでもOK!
- 表彰対象
- いつでもOK!
- 連言で寄付してもOK!

瀬戸ガバナーエレクト地区目標(一人当たり)

普通寄付5,000円+特別寄付20,000円=25,000円

普通寄付:日本全国のロータリアンは全員寄付しなければならない寄付です。次年度第2820地区は瀬戸ガバナーエレクトより会員一人5,000円と決めさせていただいております。

特別寄付:個人、クラブ、法人として普通寄付以外に寄付されるもので、金額も時期も問いません。ロータリアン以外からも寄付は可能です。税制上の優遇措置もあります。次年度瀬戸ガバナーエレクトより20,000円以上を目標としてお願い致しております。

奨学生一人 約170万円/年 かかります
寄付金の額で奨学生の人数が決まります。
今年度の寄付で3年後の奨学生の数が決まります。

社会奉仕委員会 宮本明憲次年度委員長



地区委員会の役割(社会奉仕委員会)

- クラブに成功事例やリソース、地元団体、地区委員会、奉仕関連の他のロータリーグループを紹介することで、クラブによる社会奉仕を奨励し、クラブがロータリー-地域社会共同体をスポンサーして地元市民との関係を築けるよう支援する。
地元団体、地区委員会、奉仕に取り組む他のロータリーグループをクラブで紹介することで、クラブによる社会奉仕を奨励する。
- 各自の才能や職業スキルを生かして奉仕プロジェクトを計画、実施するようクラブ会員に奨励することで、職業奉仕を推進する。
- 社会奉仕活動を実施し、成功例を紹介するようクラブに奨励する。

MY ROTARYより抜粋

「情報&リソース」⇒「リソース&参考資料」⇒「地区委員会」⇒「社会奉仕」

ラーニング形式の研究会の開催

- ラーニング形式とは? Rotary Leadership Institute (RLI) 今までの「基調講演⇒事例発表」という、講演会方式から脱却し、研究会にご参加いただく皆さんの意見を取り纏めます。そして、それに基づき全員で協議・検討を行い、当地区での最適な方向性を一緒に導き出していきます。「答えありき」ではない、役立つ・実践的な研究会を実施いたします。
- ロータリークラブ以外も含めた幅広い各種団体を巻き込み、ロータリー-地域社会共同体として地域、特に今後の地域を背負って立つ若者に役立つロータリー活動の支援となる研究会を実施します。

クラブに成功事例を紹介

- 主に地区補助金活用事業の中から、現在の社会的なニーズに合致した事業を抽出し、実施クラブから事例発表を行っていただく。発表の場として、ラーニングセミナー・研究会を実施する。
- 同じ2820地区の中でも、分区分ごとに社会奉仕事業の特色があり、A分区分では当たり前に行われている事業が、B分区分では全く該当事業がない場合も多い。
- 新しい事業を発掘する。
各地域の新しい事業を紹介してもらう。
- ロータリークラブが中心となって、【地域社会共同体】を組織するような事業の構築を全力でバックアップする。

新たな社会奉仕事業の創出支援

- 地元高校と地域をつなぐコーディネーター
都心へ流出する傾向にある若者と、次代の担い手が不足する企業との橋渡し。
- キャリアコーディネーター
学校と連携し、自クラブの会員企業や職業・業務内容について、就職を希望する学生に説明会等を実施する。
- ロータリーインターンシップ
学校の進路指導の一環として、会員企業へのインターンシップを斡旋する。また、市内企業の見学バスツアー等の企画で地元の魅力ある企業の紹介を行う。

青少年奉仕委員会 小林聡司次年度委員長



2025-26年度 地区戦略計画より

- より大きなインパクトをもたらす
 - ポリオ根絶の旗印。ポリオ根絶の達成と地域社会・国際社会への貢献
 - 公共イメージの向上⇒ロータリー外からの参加を促す(RYLA、青少年交換)
- 参加者の基盤を拡げる
 - ロータリーアクト委員会との連携
 - 地域からの参加者促進(RYLA、青少年交換)
 - 若い世代の取り込み強化
 - クラブへの青少年奉仕の周知
- 参加者の積極的なかわりを促す
 - 青少年プログラムの充実(ロータリーアクト・インターアクト複数クラブ及び分区分の支援、地区学友会によるロータリーファミリーの支援)
- 適応力を高める
 - 地区運営の簡素化と効率化によるクラブの人的負担の軽減
 - 持続可能な委員会編成
 - 地区委員会の連携強化

青少年奉仕委員会の方針

- 目的
- ①インターアクト ②青少年交換
 - ③青少年指導者養成プログラム(RYLA) 3部門のロータリー活動を通じ、青少年のリーダーシップ等を育成
- ◆青少年奉仕・ロータリーアクト研究会
7月27日(日)つづばにて開催
- 2025-2026方針
1. 青少年奉仕の国際社会への視点と地域への貢献
 2. 持続可能な社会と地域に向けて意識を醸成
⇒「平和」、「環境」を主なテーマに
 3. 危機管理の周知徹底
 4. 青少年奉仕を通じてロータリアンも成長(トレーニングからラーニングへ)対話を重視
 5. ポリオ根絶イベントの開催による地区内意識の維持

6月はロータリー親睦活動月間です

インターアクト委員会

- 12歳～18歳の中高校生が対象（現在250名余）
現在6提唱クラブの下で6つのインターアクトクラブが活動
- ・インターアクト台湾研修（4日間）調整中
 - ・インターアクト年次大会
8月8日（金）・ホストつくば東風高
場所：筑波国際大学
 - ・インターアクト活動のサポート
茨城キリスト教学園高校（日立港RC）
水戸農業高校（東海郡珂RC）
水城高校（水戸RC）
水戸女子高校（水戸西RC）
つくば東風高校（土浦南RC）
下館工業高校（しもだて紫水RC）



青少年交換委員会

青少年交換50周年

- 国内外で活躍する青少年の育成 15～19歳の高校生
アメリカ、フランス、タイとの長期交換留学（1年）
タイ3350地区との短期交換研修（6日間）
- ◆長期インバウンド
8月～翌年6月末
（アメリカ・タイ）
大高年度 1名派遣中
瀬戸年度 派遣なし
 - ◆短期インバウンド
12月タイへ派遣・3月受入



ポリオ根絶活動

地区行事 10月26日（予定）
場所 つくば市
地区実行委員会により運営
（青少年奉仕の主体的に活動）

青少年並びにライラ委員会

ロータリー青少年指導者養成プログラム(RYLA)

- ◆令和6年9月21日～9月22日高萩スポーツフィールドにて開催
- ◆受講生36名
ロータリアン58名
- ◆次年度は令和8年5月頃で調整中。

2024-2025のテーマ
「社会の行動規範と私たち」
～現代社会をどう生きるか～

3. 派遣時期

- 短期交換留学生：2025年12月19日～7日間（予定）
- 長期交換留学生：2026年8月～2025年7月（派遣国により異なります）

7. 応募方法 募集期間

- 国際ロータリー第2820地区ホームページ内、募集のお知らせを参照
- 長期交換2025年9月26日（金）まで
- 短期交換2025年10月31日（金）まで
- ※切当日必着のこと

会員増強委員会 武藤康之次年度委員長



昔ほどRIは会員の増減については厳しく言わなくなった。なぜか。ロータリーを理解していない会員が増えるとまともな運動が出来ない。会員数が少なくなってしまうとロータリーの理念を社会に広めることが不可能である。

なぜ、会員増強が必要なのか

- ・新入会員が入会することでクラブ内が活性する

- ・新入会員の入会は現会員にとってもロータリーを改めて学ぶ場となる
- ・新入会員の増強はクラブや地区の経済的基盤を確かなものにする

では、どうしたらいいか

- ・増強に成功したクラブから学ぶ
- ・あらゆる世代からしっかりした志の人を推薦する、あえて若い世代や女性をターゲットにしない
- ・入会5年未満の退会率が非常に多い、ロータリーの魅力をしっかり伝えていきたい

会員増強に打ち出の小槌はありません、地道に根気よくみんなで声をかけるしかありません。

ロータリー財団 鈴木勝久次年度委員長



4月13日に行われた地区研修・協議会でのロータリー財団の分科会の報告をさせていただきます。

今回ロータリー財団統括委員長 大野治夫PGが出席されず、ロータリー財団地域コーディネーターの新井和雄PGから挨拶がありました。

6月はロータリー親睦活動月間です

まずポリオについてのレクチャーがあり、「国際ロータリーの最優先事項は、ポリオの根絶です。2026年を根絶目標年としてきましたが、根絶までもう少しと言うところまで来ています。現状厳しい世界情勢ですが、根絶のための資金確保にご協力ください」ということでした。

次にポリオ根絶のためのプログラム、「ポリオ・プラス・ソサエティ(PPS)」について、毎年100米ドルをPPSへの参加登録を進めてほしいとの事。

続いて次年度の目標寄付額が示されました。

① 年次寄付150ドル以上、②ポリオ寄付30ドル ①+②で、合計180ドル以上(一人当たり)が目標額となります。

1) 恒久基金(ベネファクター)1000ドルの寄付を1クラブ1名以上

2) ポール・ハリス・ソサエティの目標が毎年1000ドル以上

3) ポリオ・プラス・ソサエティの目標が毎年100ドル以上で(各クラブで新規登録者が1名以上)、特にPPSについては新規会員登録100名以上を目標するとのことです。

次に財団奨学金について。これは海外留学のための支援金です。この奨学金は1年の期間で年間30000ドルが支援され、条件として会員の3親等以内の親族が対象となります。

次にポール・ハリス・ソサエティについて。これは毎年1000ドル以上の寄付を約束するプログラムで、2820地区では現在99名がこのプログラムに登録されています(2025年4月7日現在)。ちなみに水海道RCでは5名が登録されています。

最後は新井地区コーディネーターのディスカッションがあり、分科会を終了しました。

出席報告 染谷正美副委員長

会員総数	出席者数	欠席者数	出席免除	メーク	出席率
50名	32名	16名	2名	17名	100.00%

ニコニコボックス 鈴木茂徳委員 入金額 29,000円 累計 1,601,000円

本日は、土浦RCより菊池様、北茨城RCより椿様がお越しです。よろしくお願い申し上げます。

五木田会員

久しぶりの例会です。地区財団の皆さん、お疲れ様です。 瀬戸会員

菊池補助金委員長、椿ロータリー財団委員長、本日は補助金審査会に続いて例会出席ありがとうございます。 倉持会員

親睦ゴルフコンペお疲れ様でした。親睦委員会の皆様大変お疲れ様でした。優勝を頂きました。ありがとうございました。 石塚(利)会員

親睦ゴルフおつかれ様でした。賞品の高級お肉おいしかったと子供達が喜んでいました。石塚委員長ありがとうございました。 山中会員

本日も宜しくお願いします。 宮本会員

本日より宜しくお願いします。 鈴木(茂)会員

例会欠席しました。 武藤会員

欠席続きました。 染谷(秀)会員

例会欠席。ガバナー月信7月号、何とか発行に間に合いそうです。 石塚(克)会員

会報委員会 松坂興一委員長 宮代 尚副委員長 青島弘典委員